

のアルバム

▼1月14日 なかよし交流館



スポーツを通して楽しく交流を！

なかよし交流館では、障がいのある人たちがスポーツを通して仲間の交流や礼儀作法などを学び、もっと活動の場を広げたいと「スポーツ吹矢びわ湖ほほえみ野洲支部」を新たに設立（近日中）するため活動されています。

スポーツ吹矢は、腹式呼吸法を取り入れ、基本動作を正しく行うことにより集中力が高まり誰もが手軽に楽しめるスポーツです。

この日は、設立に向けて新年の初練習を行い、参加者は遠く離れた「的」の中心に狙いを定めて矢を吹いていました。

スポーツを通して、障がいのある人・ない人の交流が更に深まることを願っています。

子どもたちの知育に役立ってます

野洲ロータリークラブからロングセラーの絵本 707 冊と絵本用書架、ディスプレイ棚、表紙見せ台の家具など約 160 万円相当を寄贈していただきました。

同クラブは、これまで5年ごとに市にさまざまな物品を寄贈されており、今年は創立 35 周年を記念し、贈呈式が行われ、式典に同席した、さくらばさまこども園の園児たち（5 歳児 17 人）が「ありがとうございます。」とお礼の気持ちを伝えました。

式典が終わると先生に寄贈していただいた絵本を読んでもらい、目を輝かせながら熱心に聞き入っていました。

豊かな心を育む贈り物、ありがとうございました。



▼12月26日 野洲図書館



立派な木になりますように！

中主小学校 5・6 年生の児童 12 人とボランティア団体「喜楽会」の皆さんが中主小学校正門前の植樹帯にアーモンドの苗木 20 本を植樹しました。

これは「喜楽会」の皆さんが、子どもたちの思い出作りになればという思いから企画され、当日はメンバー 15 人が苗木を植え、子どもたちが肥料や水をやりました。

アーモンドの苗木は 2～3 年後には春先にピンクの花を咲かせ、初夏には実が採れるようになります。

子どもたちが苗木と共に大きく成長することを願っています。



▼12月9日 中主小学校



歴史の小窓

—学芸員のメッセージ—

(161)

歴史民俗博物館 ☎587-4410、Fax587-4413

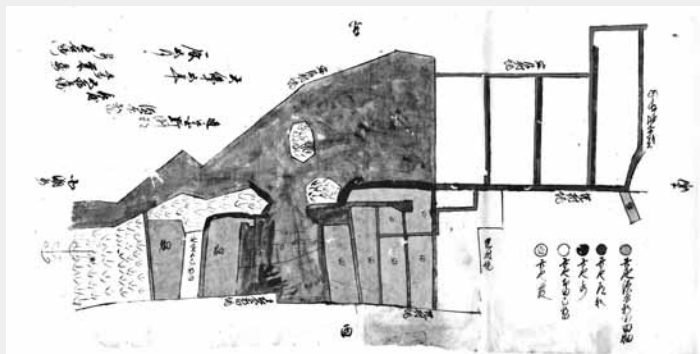
湖と生きる須原村

野洲市須原に伝わる江戸時代から昭和初期までの2,439点に及ぶ古文書群の『須原区有文書』（市指定文化財・須原自治会蔵）からは、湖岸村落ゆえに起きる諸問題に向き合ってきた須原村の歴史が見えてきます。

かつて、蓮池の里第二処分場の南端あたりまで湖が深く入り込んでいた須原村の北側の地先は、現在とは全く異なる風景が広がっていました。ここには魚の産卵場所として最適な葭地（やし）が広がり、同村では農業のほか、魩漁（いりい）も生業として営まれていました。葭は、魩漁の簀（いりい）（魩漁で用いられる漁具）や、屋根の葺き替え、薪に利用され、生活に不可欠なものでした。隣接する安治村や堤村でも同様で、恵みをもたらす琵琶湖の水際一帯の所有権をいかに確保するかは重要なことであり、『須原区有文書』には湖岸付近の村境を示す絵図や、新規に魩を張り出す村への訴状が収められています。

恩恵をもたらす一方で、琵琶湖の水位上昇による冠水被害は甚大で、江戸時代には琵琶湖から唯一流れ出る瀬田川の浚渫（しゅんせつ）（川底の土砂さらい）を、湖岸の村々が何度も幕府に願い出ています。浚渫後の水位低下により現れる陸地に目をつけた幕府は、年貢（税）増収を見込んで湖岸の新田開発を推奨します。須原村地先周辺でも、天保年間（1830～1844）に江戸の商人であった大久保今助・貞之助父子が開発請負人として湖岸の耕地化を進め、「大久保新田」と称しました。葭地や魩場を従来通りに維持したい須原村は、苦悩の末、金257両1分銭104文（1両は、大工約20人の一日の賃金に相当）という高額の買い取りに応じます。新田とその開発権は須原村に譲渡されましたが、先の支払いは非常に重荷でありました。その後、開発の手は緩められますが、古文書からは、さまざまな困難を乗り越えて湖岸一帯を守りぬいた人々の姿勢が読み取れます。

ここで紹介した須原村の動向がわかる『須原区有文書』は、2月3日(土)から3月11日(日)まで開催の「湖と生きる 須原村のくらしといのり」で展示します。須原村の人々に思いを馳せながらご覧ください。（市史専門調査員 江藤弥生）



天保15年（1844）「須原新田絵図」（『須原区有文書』所収）

■テーマ展 野洲の古文書(16)「湖と生きる 須原村のくらしといのり」

2月3日(土)～3月11日(日)まで

休館日：月曜日（2月12日は開館）、2月13日(火)

※市民は入館無料



100 歳おめでとう①

100歳の誕生日を迎えた吉田サカエさん（西河原）を山仲市長がお祝いに訪問しました。

大正6年12月24日生まれのおサカエさんは、縫い物が好きで、昔は趣味で和裁をされておられました。

最近では刺し子が趣味で、色とりどりの糸を使った素敵な作品をたくさん作っておられます。

この日は家族と市長に祝福され「ありがとうございます。」と感謝されていました。

いつまでもお元気で。

▼ 12月26日 西河原



100 歳おめでとう②

100歳の誕生日を迎えた角南廣子さん（北野）を山仲市長がお祝いに訪問しました。

大正6年12月15日生まれのお廣子さんは、若い頃から手先が器用で貼り絵や手芸などを楽しんでおられたそうです。

現在も創作意欲が旺盛できめ細やかに作成された素晴らしい作品を披露していただきました。

いつまでもお元気で。

▼ 12月18日 八夫

